

県西部における旧石器時代遺跡の 調査事例について

－新東名高速道路建設事業に伴う調査事例－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

平成18年に始まった新東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、本年でひとまずの終了を見る。これまで16年にわたり調査が行なわれ、そのなかで数多くの旧石器時代の資料が発見された。しかし、発掘作業を優先して行なってきたために、一部を除き、多くの調査成果は出土品等整理作業を待っている状態となっている。発掘作業が一区切りを迎える本年に、これまでの成果を集成することとした。各遺跡は、若干なりとも出土品等整理作業が進んでいる遺跡と、全く手つかずの遺跡があり、今回記述した内容には差があるが、現状で判明している内容、既発表資料記載内容の集成としてご理解いただきたい。ただし、石器群の詳細な内容、石器集中箇所数や出土層位など含めて、今後随時刊行されていく調査報告書をもって正式な報告とされたい。なお、出土層位の層位表記は、県西部では多くが相模野台地の土層に照らし「相当層」を付すことが多いが、ここでは省略して表記する。また、一般国道246号（厚木秦野道路）建設に伴う発掘作業も伊勢原市内を中心に行なわれており、旧石器時代の資料を含め、日々、新たな調査成果が得られている。ただし、こちらは現在も継続して調査が行なわれているため、今回の集成では対象外としている。

伊勢原市内での調査事例

伊勢原市内では、東から粟窪地区、西富岡地区、上粕屋地区、子易地区と大きく4エリアに分かれて発掘調査を進め、それぞれの地区において旧石器時代の石器が出土している。概ね東側の遺跡から順に出土事例について以下に記述する。

粟窪・林遺跡

所在地：伊勢原市粟窪

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅から北方約2kmの標高35～37mの台地上に位置する。台地は、西側に渋田川、東側に歌川があり二つの河川に挟まれている。

調査概要：粟窪地区6区南東の南側斜面地で見つかっており、AT層より下層で剥片が出土している。2ブロック確認されており、それぞれ9点、10点からなり、石器周辺では若干の礫や炭化物が検出されている。伊勢原市内では最古級の石器である。

東富岡・太窪遺跡

所在地：伊勢原市東富岡

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅より北方2kmの標高約36mの台地上に位置する。東富岡・南三間遺

跡付近を谷頭とする歌川小支谷と歌川本流の低地との合流点南側台地縁辺に立地している。

調査概要：栗窪地区2区南で見つかっており、B2層から4点の剥片が出土している。土層の堆積状況はだいぶ乱れているようで、層滑りなどの影響で斜面から流れ込んでいる可能性も考えられ、出土層位は検討を要する。

西富岡・向畠遺跡

所在地：伊勢原市西富岡

遺跡立地：伊勢原市街地のある伊勢原台地の北に展開する丘陵部に存在し、東に丹沢山地東麓から南北に延びる富岡丘陵、西側に上粕屋一ノ郷北を源流として南流する渋田川が存在する。この富岡丘陵と渋田川に挟まれた台地上に立地している。

調査概要：以下区ごとに記すこととする。

4区) L1H層から礫群、L1S層～L1H層で石器集中3箇所が検出。

5区) L1H層から石器出土。

6区南) L1H層からナイフ形石器が1点出土。

7区) B1層上部で炭化物集中1箇所、L1H層下部～L2層で黒曜石製石器集中箇所1箇所検出。

9区) B1層～L2層で礫群が出土。B2層で礫群3箇所と石器、B3層上面で剥片が出土している。

11区東) B1層上部から剥片が出土している。

14区) L1H層からB1層にかけて、細粒凝灰岩、黒曜石、安山岩、チャートなどを用いた槍先形尖頭器（両面・片面加工）、ナイフ形石器、搔器などを主体とした石器集中部23箇所、炭化物集中部17箇所以上、礫群11基が検出された。これらは文化層が2面以上に分かれる可能性あり。石器・礫合させて約2,200点出土。B1層上部にて炭化材がまとまって出土しており、AMS分析では $18,660 \pm 60$ yrBPという結果が得られている。

14区北) L1H層下部から石器集中部9箇所、礫群9基、炭化物集中7箇所、石器は凝灰岩主体の石刃や剥片など。B1層からは黒曜石のナイフ形石器などとともに礫群が6基検出されている。

15区) B0層で槍先形尖頭器1点、L1H層で槍先形尖頭器などの石器群、B1層で凝灰岩主体の剥片300点以上、L2層で5基ほどのまとまりに捉えられる礫群が黒曜石主体の搔器や錐器などの石器を伴って出土している。

16区) B1層から石器集中部が2箇所、L1H層～B1層で礫群が1基検出されている。14区を中心に出土しているナイフ形石器を伴う槍先形尖頭器石器群の分布北限と捉えられている。

34・35工区) L1H層上部と下部及びB2層からそれぞれ石器集中箇所が検出されている。

36-2工区) L2層～B2層より石器集中部1箇所、礫群1基が検出されている。34・35工区の石器群の広がりと考えられる。

西富岡・下ノ田遺跡

所在地、遺跡立地は西富岡・向畠遺跡に準じる。

調査概要：31-2工区においてガラス質黒色安山岩製の槍先形尖頭器が2点単独で出土している（第1図）。

県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について

上粕屋・辻遺跡

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅の北西約2.5kmに位置し、標高56mほどの丘陵上に立地している。この丘陵は西から東に向かって傾斜しており、頂部はローム層上面まで削平を受けていた。

調査概要：丘陵頂部にあたる地点において、B1層から凝灰岩を中心に、黒曜石、チャートからなる石刃を含む剥片類がまとまって出土している。礫群と炭化物集中箇所も確認されている。

上粕屋・秋山遺跡

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：伊勢原台地北方の丘陵地帯に位置する。周辺は、大山南東麓から南下する鈴川が形成した扇状地にあたる。調査地は、この台地の北東端部付近にあり、北側は渋田川支流が形成した低地、東と南は北側低地から南へ入り込む小支谷より画された舌状の台地端部周辺に位置する。

調査概要：ベント2部分の調査時に旧石器時代の遺物が発見され、最終的に約110m²の範囲について掘削調査を実施した。出土層位はL1H層～B1層にかけてであり、3箇所の石器集中個所が確認された。

上粕屋・秋山上遺跡

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：遺跡は、渋田川と鈴川に挟まれた上粕屋扇状地に位置する台地の南東向きの広大な緩斜面上で確認されている。今回の調査範囲は、台地北縁部分の北西向きの緩斜面に位置し、上粕屋扇状地の北縁部にあたる。遺跡の北側には東西方向に流れる渋田川の支流により形成された支谷に画されている。

調査概要：石器群は、B1層下部を中心に石器集中4箇所、配石炉1基、礫群3基、炭化物集中1基が発見され、出土遺物は2,000点以上を数える。特に注目されるのは、配石炉から出土した白色微細遺物である。配石炉は6点の礫が1.45mの範囲から検出され、0.6mの楕円状の範囲が0.1mの深さで皿状に落ち込み、中心部の0.45mの範囲には赤化した焼土ブロックを含む。白色微細遺物は、その配石炉中央の焼土ブロックを伴う浅い掘り込みから26点出土した。このうち3点について蛍光X線分析や実態顕微鏡による分析を委託した結果、哺乳類の骨片が高温での被熱により白色化したものであることが判明した。出土事例的にも場の機能を考えていくためにも貴重な資料と言えよう。

上粕屋・和田内遺跡（脇 2016）

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅から北西約3kmにある上粕屋扇状地内の台地上。

調査概要：B1層とB2層から遺物が出土した。

B1層では、石器総数70点が出土した。内訳はナイフ形石器1点、使用痕ある剥片（U F）1点、剥片・碎片68点（篩掛け出土遺物1点含む）である。石材組成は、黒曜石70点（篩掛け出土遺物含む）で、産地同定分析では小深沢68点、不明2点である。また礫1点も出土している。石材は硬質細粒凝灰岩である。

B2層では、石器集中（ブロック）が4箇所検出し、石器総数437点（一括出土石器6点含む。接合後の点数は408点）が出土した（第1図）。内訳は、ナイフ形石器10点、尖頭器1点、搔器6点、削器15点、二次

加工ある剥片（R F）15点、使用痕ある剥片（U F）7点、剥片・碎片342点、石核・石核素材5点、叩石1点、磨石・磨石状円礫29点である。石器石材組成は、黒曜石106点、硬質細粒凝灰岩200点、細粒凝灰岩2点、中粒凝灰岩2点、ガラス質黒色安山岩93点、安山岩1点、変質安山岩2点、変質斑レイ岩3点、頁岩1点、珪質頁岩1点、富士玄武岩18点、変質玄武岩1点、砂岩2点、ホルンフェルス1点である。石器集中にともなつて礫群も4箇所検出している。礫総数は260点（礫群を構成する礫138点、石器集中から出土した礫122点、接合後の点数は241点）である。礫石材組成は、軟質細粒凝灰岩5点、細粒凝灰岩32点、中粒凝灰岩44点、粗粒凝灰岩90点、弱固結凝灰岩1点、安山岩16点、変質安山岩11点、石英2点、石英片岩1点、変質斑レイ岩4点、富士玄武岩11点、変質玄武岩21点、砂岩3点、変質ドレライト15点である。

上粕屋・一ノ郷南遺跡（脇 2016）

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅から北西約3kmにある上粕屋扇状地内の台地上。

調査概要：2区から遺物が出土している（第1図）。出土層位はL1S層～B1層である。石器総数39点が出土した。内訳は、槍先形尖頭器1点、使用痕ある剥片1点、剥片27点（接合後の同一個体数は26）、石核・石核素材7点（接合後の同一個体数は5）、礫器1点、台石1点、分類不能3点である。石器とともに礫が25点出土している。礫は、被熱やススが付着しているものがみられることから、礫群を構成していたものと考えられる。石器石材では、硬質細粒凝灰岩12点、軟質細粒凝灰岩32点、中粒凝灰岩6点、粗粒凝灰岩5点、安山岩3点、メノウ1点、変質玄武岩7点、変質ドレライト1点である。

上粕屋・子易遺跡

所在地：伊勢原市上粕屋

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅から北西約3kmにある上粕屋扇状地の扇頂部にあたる台地上

調査概要：13-1工区：L1H層、B1層、B2層から石器が出土した。L1H層では、石器総数9,532点、礫101点が出土した。石器集中は6～7箇所程になると考えられる。礫群は、明瞭に捉えられたのは1箇所で、その他では1～3点程度が纏まり、調査区内に分散している。石器は、槍先形尖頭器、同未製品、剥片、碎片、石核が出土している。石材は、ガラス質黒色安山岩、凝灰岩で占められる。出土石器から尖頭器製作に関する石器集中、製作址と考えられる。B1層では、剥片7点が出土した。B2層では、剥片1点が出土した。

13-8工区：L1H層下位からB1層中位にかけて石器が出土した。石器は、ナイフ形石器、同未製品、石核、敲石である。石器出土点数は不明。石器集中は2箇所になりそうである。石器石材は黒曜石を主体とし、凝灰岩、チャートなどで構成される。

13-9 a ②工区：B1層から石器が出土した。石器集中1箇所、礫群1箇所を検出した。石器総数は15点で、全て剥片である。石材は、全て黒曜石である。

13-9 b ②工区：L1H層下部～B1層上層から石器が出土した。石器集中1箇所、礫群1箇所を検出した。石器の出土点数、および石器石材は不明である。

13-10c工区：L1H層～B1層から石器が出土した。石器集中は1箇所で、礫群も1箇所検出した。石器の出土点数は不明である。石器は、剥片、碎片を主体とし、槍先形尖頭器が数点出土している。石器石材は、黒曜石が主体を占める。

県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について

子易・大坪遺跡

所在地：伊勢原市子易

遺跡立地：小田急小田原線伊勢原駅北西3.5kmの子易地区に位置する。大山に源を発し、市域を南東流する鈴川の右岸、段丘上に立地する。標高は105～110mである。

調査概要：4区北において2面の文化層が確認されている。B0層からは6点の礫から構成される礫群が1基検出されている。L2層からはスクレイパーや剥片を含む11点の石器と礫群が検出されている。

子易・中川原遺跡

所在地：伊勢原市子易

遺跡立地：子易・大坪遺跡に準じる。

調査概要：4-1②工区にて、L1H層下層～B1層上層より石器集中と礫群が検出されている。石器集中は大きく2箇所と見られ、うち1箇所と礫群が重複して分布する。石器は黒曜石を主体として約400点出土している。

秦野市内での調査事例

秦野市内では、東は寺山・蓑毛地区、西は菖蒲地区まで路線に沿って東西に広く調査が行なわれた。特に蓑毛小林遺跡では3万点を超える石器が出土し、県内でも有数の旧石器時代遺跡として知られているところである。

寺山中丸遺跡

所在地：秦野市寺山

遺跡立地：秦野盆地北東部に位置し、ヤビツ峠付近を源流とする金目川上流の東側に位置し、標高203～207mの傾斜地に立地する。

調査概要：L1S層～L2層の地層が確認されている。2013年度に調査地北東の1区において縄文時代草創期の石器製作跡とさらに下層のローム層から旧石器遺物が出土した。2015年度は調査地中央の調査坑79・87・90においてB1層上部の層準で黒曜石を主体とする剥片等の石器遺物、焼礫、炭化物等が集中部を伴って出土した。2016年度には、調査区南東側に14箇所の調査坑を設定し、調査坑110L1H層から凝灰岩製剥片1点が出土した。

寺山大仙寺遺跡

所在地：秦野市寺山字大仙寺地先

遺跡立地：秦野盆地北東部に位置し、丹沢山地から南へ張り出した高取山西麓の丘陵上に立地する。標高は243m前後。高取山裾の西側斜面部に立地する。

調査概要：L1S層～B2U層の地層が確認されている。B1層で黒曜石・細粒凝灰岩を主体とする石器遺物、焼礫・搬入礫などからなる遺物が集中部を伴って出土したが、B1層～L2層のロームが混じった斜面崩積土であるため、全体的に原位置から斜面下方に向かって東側へ移動していた。黒曜石製ナイフ形石器、加工痕がある剥片、楔形石器、石核などからなり、ナイフ形石器は不整形な剥片を素材に細部調整が施された

ものが主体をなす。ナイフ形石器文化期終末段階の石器群と共通する特徴を有する。

蓑毛小林遺跡

所在地：秦野市蓑毛

遺跡立地：秦野盆地北東部に位置し、丹沢山地の南麓の丘陵部から続く扇状地地形で、東側を小蓑毛沢、西側を金目川に挟まれた緩斜面上に立地する。標高は197～199m。

調査概要：L1S層～B2L層下部の地層が確認されている。2015年度に調査区東側のⅢ区東において、L1H層下部からB1層上部にかけて槍先形尖頭器を主体とする石器群が検出された（第1図）。槍先形尖頭器の石器製作跡とみられ、当該年度で見つかった石器遺物は30,054点、槍先形尖頭器は249点（未製品・欠損品を含む）に及ぶ。5～6箇所の石器遺物集中部と礫群3基、炉跡1基を伴っていた。そのほかB2層からもナイフ形石器を主体とする石器群が出土しており、2016年度の調査と合わせるとB2層の出土点数は20,021点であった。礫群は18基が検出された。2017年度には調査区北西のV区において、L1S層下部～B0層上部で南北2箇所の石器遺物集中部を伴った縄文時代草創期の石器群が認められた。槍先形尖頭器の製作跡とみられる。そのほか配石遺構2基も見つかっている。V区ではさらに下層のB1層中部から下部にかけて黒曜石製ナイフ形石器群を主体とする石器群が、礫群3基を伴って出土した。2018年度はIV区・V区の西側を拡張して調査が行われ、IX区南で設定したマス103においてL1S層で安山岩を主体とする石器遺物と炉跡3基、土坑1基、ピット3基を検出した。縄文草創期の遺構とみられる。最終の2019年度では、調査区南端でX区の調査が行われ、ローム漸移層からL1S層最上部にかけて444点の石器遺物が出土した。石器は有茎尖頭器を伴っており、同一層準からは草創期に属する土器片も出土した。表面にわずかに縄文がみられる。

このように蓑毛小林遺跡の調査では、B2層～漸移層において6面に及ぶ文化層が確認されており、石器遺物の出土点数も膨大である。秦野盆地における大規模かつ拠点的な遺跡として評価しうる。

横野下開戸遺跡

所在地：秦野市菩提

遺跡立地：小田急小田原線渋沢駅の北方約3.2kmに位置し、秦野盆地扇状地の北西扇頂部に立地する。

調査概要：石器は、L1H層より、黒曜石および凝灰岩の剥片が2カ所で出土している。ただ、出土遺物は礫を含めて8点程度である。

稻荷木遺跡

所在地：秦野市戸川

遺跡立地：小田急小田原線渋沢駅の北方約2.5kmに位置する。金目川水系の水無川左岸の河岸段丘上に立地する。

調査概要：ローム層中からは、3区、12区、18区で確認され、3区はL1S層、12区はB0層、18区はL1H層より石器が出土している。3区では、槍先形尖頭器と剥片が単独で出土している。12区では黒曜石製の石器が1点のみ出土、3区の東側に隣接する18区では、L1H層上層で凝灰岩製の剥片を主体とする石器集中（ブロック）が1箇所確認され、礫群を伴っている。また、礫群には炭化物が伴っており、分析の結果が待たれる。

県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について

菖蒲平台遺跡

所在地：秦野市菖蒲、秦野市八沢字鶴牧田

遺跡立地：小田急小田原線渋沢駅の西方約2.5kmに位置し、秦野盆地の西部を流れる四十八瀬川と濁沢に挟まれた丘陵部に立地する。

調査概要：石器は、B0層中～下部より、細石刃を主体とした石器群が発見されている。

石器総数1,913点が出土しており、内訳は細石刃374点、細石刃石核47点、錐器3点、削器4点、抉入削器5点、搔器1点、礫器6点、叩き石3点、台石2点、石核12点と剥片・碎片類である。石器集中（プロック）は6箇所確認され、石器集中に伴う炭化物からC14年代測定を実施した結果、概ね17,500calBPという年代観が得られた。

おわりに

冒頭、16年かけて実施してきた新東名高速道路建設に伴う調査であることを紹介した。本事業によって遺跡数だけでも18遺跡を数え、文化層単位で見直すとさらに多くの人類の営みを垣間見ることが出来たと言える。これまで神奈川県の県西部では発掘調査が行なわれることは多くなく、第一東海自動車道の拡幅工事や近年行われている県道整備に伴う発掘調査成果などが中心であった。そうした環境下、県下の様相を探るには相模野台地の旧石器時代がイコール神奈川の旧石器時代のように観察せざるを得ない状況が続いている。今回県下全域を網羅するものではないものの、伊勢原市内以外では県西部であまり認められていなかった大規模遺跡と呼ばれるような遺物群が複数箇所確認できたことや、遺物の採集例や小規模な遺跡のみの確認であった地域での調査事例など、これまでの調査・研究が行われてきた成果に対して圧倒的な資料数増大に貢献できたものと考えている。

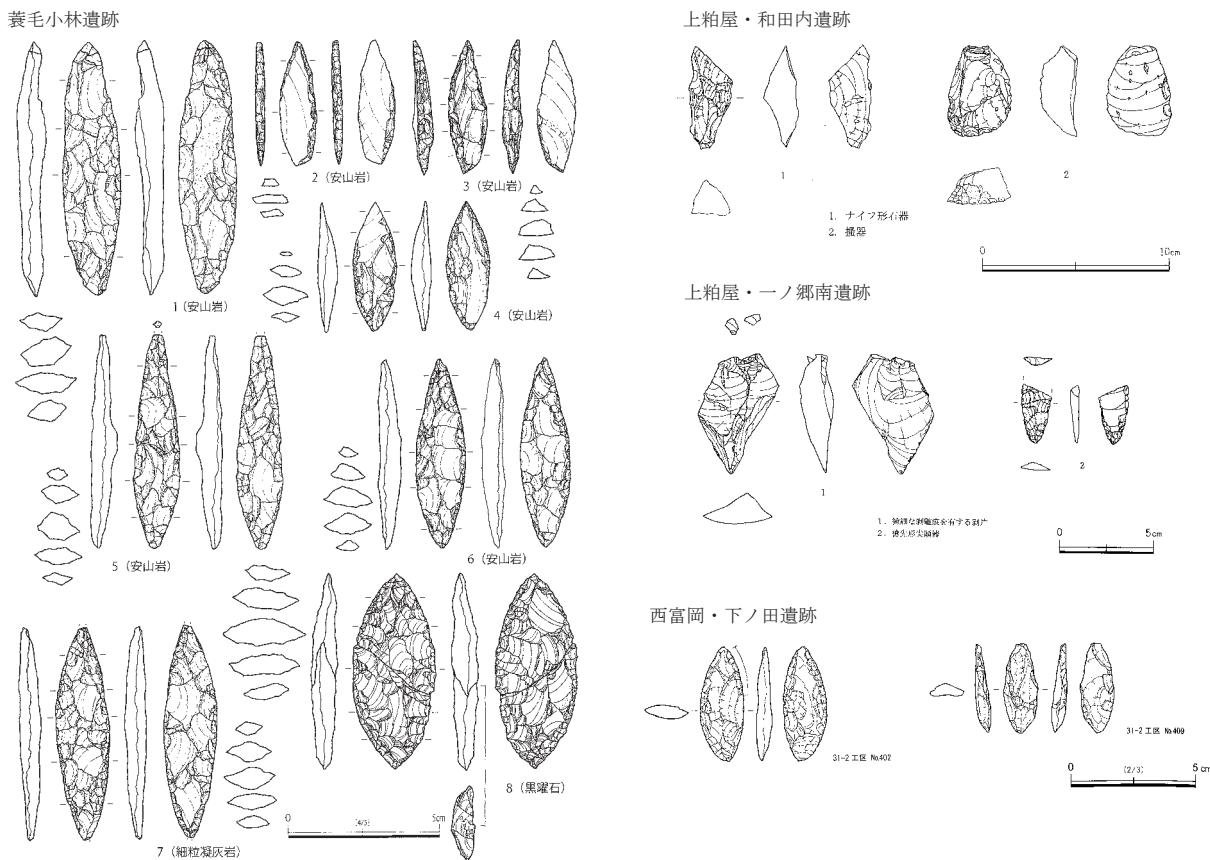
今回、ダイジェスト版として発掘調査概報や年報に掲載した内容に留まらざるを得ないものの、いち早く情報の共有を図るものとして資料紹介を試みたものである。今後、本腰を入れて出土品等整理作業に着手することになり、おそらく最後の調査報告が刊行されるまで10年以上の歳月が必要となる。

発掘調査の段階からご助言を頂いている方々、今回の資料紹介によって知っていただい方々、出土品等整理作業の中でご指導・ご鞭撻を頂ければと願う次第である。

第1表 新東名建設に伴い発見された旧石器時代遺跡

遺跡名	所在地	出土層位	内容（概略）	備考
栗窪・林遺跡	伊勢原市栗窪	AT層下位	剥片類 2ブロック	伊勢原市内最古級
東富岡・太窪遺跡	伊勢原市東富岡	B2層	剥片	
西富岡・向畑遺跡	伊勢原市西富岡	L1H層～B1層主体 上下層にも文化層あり	槍先形尖頭器、ナイフ形石器など主体とした複数遺物集中と、礫群、炭化物集中多数複数地点で石器が出土している	既報告で細石刃石器群あり
西富岡・下ノ田遺跡	伊勢原市西富岡	記載無し	ガラス質黒色安山岩製 槍先形尖頭器（単独）	縄文草創期の可能性もあり
上粕屋・辻遺跡	伊勢原市上粕屋	B1層	石刀含む剥片類 磕群	
上粕屋・秋山遺跡	伊勢原市上粕屋			
上粕屋・秋山上遺跡	伊勢原市上粕屋			
上粕屋・和田内遺跡	伊勢原市上粕屋	B1層、B2層	B1層ナイフ形石器主体黒曜石製。 B2層ナイフ形石器や槍先形尖頭器 黒曜石・凝灰岩・ガラス質黒色安山岩主体 石器集中4、礫群4	
上粕屋・一ノ郷南	伊勢原市上粕屋	L1S層～B1層	槍先形尖頭器、凝灰岩主体	既報告
上粕屋・子易遺跡	伊勢原市上粕屋	L1H層～B1層	槍先形尖頭器石器群主体黒曜石製多い、礫群も伴い、ナイフ形石器も見受けられる。	
子易・大坪遺跡	伊勢原市子易	B0層、L2層	それぞれ礫群、L2層では石器も伴って出土	
子易・中川原遺跡	伊勢原市子易	L1H層下層～B1層上層	礫群と黒曜石主体の石器約400点	
寺山中丸遺跡	秦野市寺山	B1層上部	黒曜石主体の石器群	草創期石器製作跡も調査されている
寺山大仙寺遺跡	秦野市寺山	B1層	ナイフ形石器主体	ナイフ形石器文化終末期段階
養毛小林	秦野市養毛	L1H層下部～B1層上部、 B2層を主体	L1H層～B1層で槍先形尖頭器、B2層でナイフ形石器を主体とした石器群	漸移層からB2層にかけて6文化層（草創期含む）
横野下戸門遺跡	秦野市横野	L1H層	黒曜石、凝灰岩主体の剥片など8点	
稻荷木遺跡	秦野市戸川	L1H層上部	凝灰岩剥片や石核、敲石	L1S層やB0層で槍先形尖頭器等の単独出土あり
菖蒲平台遺跡	秦野市八沢	B0層中部～B0層下部	細石刃石器群、石器集中6箇所	炭化物の年代測定17,500calBP

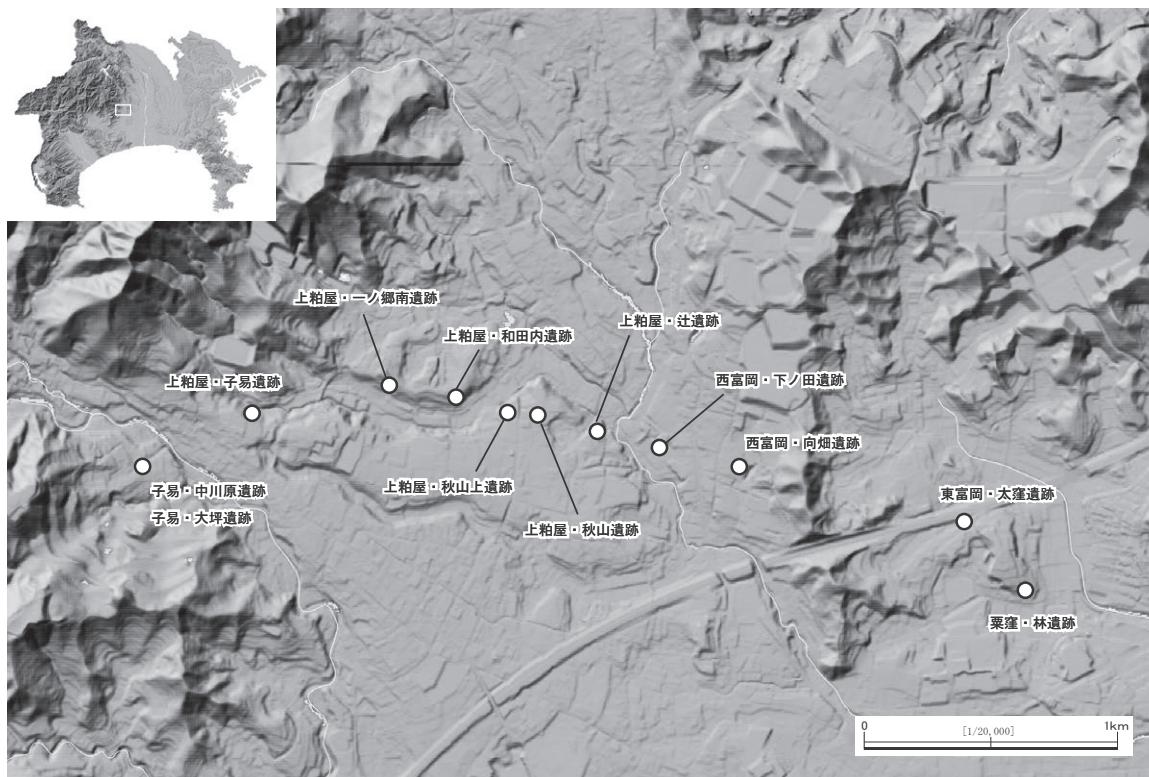
第1図 かながわ考古学財団年報掲載石器実測図



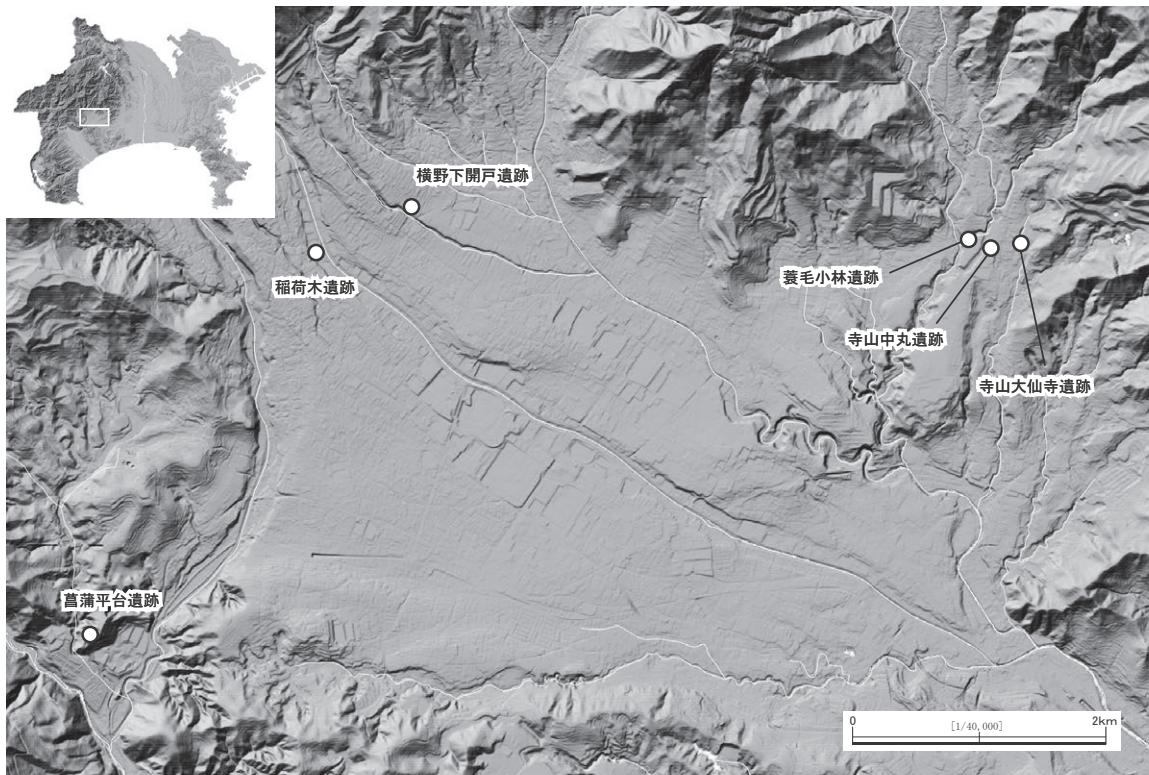
県西部における旧石器時代遺跡の調査事例について

【引用参考文献】

- 財団法人かながわ考古学財団 2008 平成19年度第二東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域埋蔵文化財発掘調査－伊勢原市No.160遺跡発掘調査概報－
- 財団法人かながわ考古学財団 2009 平成20年度第二東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 財団法人かながわ考古学財団 2010 平成21年度第二東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 財団法人かながわ考古学財団 2011 平成22年度新東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域（西富岡地区）埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2012 平成23年度新東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域（西富岡地区）埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2013 平成24年度新東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域（西富岡地区）埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2014 平成25年度新東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域（西富岡地区）埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2015 平成26年度新東名高速道路建設事業に伴う伊勢原市域（西富岡地区）埋蔵文化財発掘調査－西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡発掘調査概報－
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2016 西富岡・向畑遺跡（伊勢原市No.160）発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2016 上柏屋・辻遺跡 上柏屋・秋山遺跡発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2016 上柏屋・辻遺跡発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2017 西富岡・向畑遺跡（伊勢原市No.160）糟屋館跡（伊勢原市No.74）発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2017 上柏屋・子易遺跡発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2017 菖蒲平台遺跡（秦野市No.138）発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2018 西富岡・向畑遺跡（伊勢原市No.160）西富岡・下ノ田遺跡第2次（伊勢原市No.160）上柏屋・秋山遺跡（伊勢原市No.74）東富岡・南三間遺跡第2次（伊勢原市No.160）発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2018 上柏屋・子易遺跡発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2018 菖蒲平台遺跡（秦野市No.138）発掘調査概報
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2020年 西富岡・向畑遺跡 西富岡・下ノ田遺跡第2次調査 上柏屋・和田内遺跡第6次調査発掘調査概報
- 脇 幸生・菊川 泉 2016 「上柏屋・一ノ郷南遺跡 上柏屋・和田内遺跡」 かながわ考古学財団調査報告312
- 財団法人かながわ考古学財団/公益財団法人かながわ考古学財団 2008～2020年 年報15～27（一括記載）



第2図 伊勢原市内の旧石器時代遺跡



第3図 秦野市内の旧石器時代遺跡